

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 瀬谷支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和7年5月29日(木) 14:00~16:00
開催場所	瀬谷支援学校 G棟
出席者	委員7名(本校校長1名を含む)※1名欠席 事務局13名
会議資料	①学校運営協議会運営計画 ②瀬谷支援学校ランドデザイン ③令和6年度学校評価報告書、 ④令和7年度学校評価報告書(目標設定) ⑤各部門・グループ取組の重点 ⑥令和7年度不祥事ゼロプログラム
議事録	<p>1 開会および校長挨拶 本校は現校長着任から4年が経過し、その間に児童生徒数および教職員数が増加し、教職員数は事務職員、調理員等を含め200名規模の学校となっている。県立特別支援学校の中でも大規模校に位置付けられており、学校運営について、より組織的かつ計画的な対応が求められているとの説明があった。また、「子どもたちが毎日行きたいと思える学校」「保護者が安心して通わせることができる学校」であり続けることを学校運営の基本に据えており、そのために教職員の力だけでなく、地域や関係機関、保護者との連携が不可欠であることが述べられた。そして本協議会では、学校運営方針および今年度の重点的な取組について説明を行うとともに、委員からの率直な意見や助言を今後の学校運営に生かしていきたいとの考えが示された。</p> <p>2 学校運営協議会委員紹介 事務局より横浜市立上瀬谷小学校校長・小林京子委員は都合により欠席との報告があった。各委員より自己紹介があり、元校長経験者から「学校の大規模化に伴い、組織的な対応と同時に、個々の子どもへの丁寧な支援が重要になる」との発言があった。福祉施設関係者からは施設入所児童の通学支援や生活面での連携の重要性が述べられた。企業関係者からは「卒業後の就労を見据えた教育について、企業として協力できることがあれば積極的に関わりたい」との意向が示された。地域関係者およびPTA代表からは「地域として学校を支えたい」「保護者の立場から学校の取組を理解し、協力していきたい」との発言があった。</p> <p>3 学校職員および事務局紹介 副校長、教頭、各学部長、分教室室長、各グループリーダーより自己紹介が行われ、それぞれの立場から本協議会への参加にあたっての抱負が述べられた。</p> <p>4 会長の選出 事務局より田村委員を会長として推薦する提案があり、委員の拍手により満場一致で承認された。田村会長より「学校運営協議会は学校を評価する場であると同時に、学校を支える応援団である。学校単体では解決が難しい課題についても、委員それぞれの立場や専門性を生かし、協力していきたい」との挨拶があった。</p> <p>5 学校運営協議会制度および部会について 事務局よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会)制度の概要について説明があった。本校では「学校評価部会」「切れ目ない支援部会」の2部会を設置し、学校評価や就学前から卒業後までを見通した支援体制、地域・関係機関との連携について協議を行うことが確認された。委員からは「部会での協議内容を全体会で共有することで、学校全体の方向性がより明確になる」との意見があり、事務局より、そのように進めていくとの回答があった。</p> <p>6 学校運営方針について 校長より、学校運営方針について説明が行われた。本校が目指す子ども像として、「主体的に学び、考え、自己決定できる子ども」「働く意欲をもち、社会参加を目指す子ども」「人を思いやり、仲間と協力できる子ども」が示された。また、今年度の重点課題として、教育課程の見直し、ICTを活用した授業改善、地域との協働、働き方改革、老朽化・過大規模化への対応が挙げられ、それぞれについて具体的な取組が説明された。委員からは、「ICT活用は子どもの実態に応じた活用が重要」「働き方改革と教育の質の高立が課題」といった意見が出された。</p> <p>7 学校教育目標および評価指標 副校長より、4か年計画に基づく学校教育目標および今年度の重点目標、評価指標について説明があった。委員から「数値だけでなく、子どもや保護者の声を反映した評価も大切にしてほしい」との意見があり、副校長より、「アンケート等も含めて総合的に評価していく」との回答があった。</p> <p>8 不祥事防止プログラム 副校長より、令和7年度不祥事防止プログラムについて説明があった。体罰・不適切指導防止、ハラスメント防止、個人情報管理、交通事故防止等について、具体的な取組と職員への周知方法が示された。委員からは「管理職が率先して声掛けを行うことが重要」との助言があった。</p> <p>9 各学部・各グループの取組 各学部長および分教室室長、各グループリーダーより、令和7年度の重点的な取組について報告が行われた。 ■小学部では、安心して学校生活を送れる環境づくりと生活の基礎となる力の育成を重視している。写真カードやスケジュール表等の視覚的支援を活用し、児童が見通しをもって行動できるようにしている。タブレット端末を用いた意思表示支援により、児童の自己表現の幅が広がっているとの報告があった。 ■中学部では、自己選択・自己決定の力の育成と社会性の向上を柱とし、作業学習や学級活動を通して役割意識や協働性を育てている。作業工程をICTで可視化するなど、生徒の理解を支える工夫が紹介された。 ■高等部では、卒業後の生活や就労を見据えた指導を重点とし、校内外での作業学習や現場実習を段階的に実施している。公共交通機関の利用練習や金銭管理の学習等、自立生活に必要な力の育成にも取り組んでいる。 ■分教室では、医療機関や施設と連携し、児童生徒の体調や生活リズムに配慮した教育活動を行っている。在籍校との情報共有を丁寧に行い、円滑な復帰につなげている。 各グループからは、ICT活用による授業改善、進路指導の充実、安全・危機管理体制の強化等について報告があった。 委員からは、「取組を学校全体で共有し、継続的に発展させてほしい」との意見が出され、校長より「取組の可視化と共有を進めていく」とのまとめがあった。</p> <p>10 まとめ 校長より、本日の協議を通して得られた意見や助言を、今後の学校運営および教育活動の改善に生かしていくとの発言があり、閉会となった。</p>